

いつまでも残したい、歴史的な建物

川越には、長い時を重ねた、すてきな建物がたくさん残っています。これらの建築物は、このままの状態に残していきたい貴重な資産です。

しかし、所有者の高齢化や暮らし方の変化等により、建築物を住居から飲食店にするなど使い方を変更する事例や、大規模な改修工事等を行わないと使用できない事例が増えています。このような事例に対し、歴史的に価値のある建築物であっても建築基準法に適合させる必要があるために、活用しにくい場合があります。

平成28年10月1日、「川越市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例」が施行されました。この条例は、それぞれの建築物の状態等を考慮し、防火や避難等の安全性を確保することができれば、必ずしも建築基準法に適合させなくてもよいこととし、歴史的建築物の保存と活用の両立を促進することを目的としています。「町家は残したいけど、奥にバリアフリーの住居を増築したい」「住居としては使わないけど、何かに活用できれば残せるのに」「そのままの風情を残して使いたかったのに、大掛かりな工事になりそう」といった所有者の声に対し、条例を活用することにより、その思いの実現と不安の解消につながればと考えています。

川越らしい歴史的建築物が、いつまでも残ることを願っています。



川越らしさが残る一番街の町並み



ハチミツ

川越に養蜂家がいると聞いて意外に思う人も多いのではない

でしょうか。「川越にはアカシアやエゴノキなど、ハチミツに向けた花が咲く場所があるんですよ」と話すのは、そのうちの1人、野々山純さん(砂新田)。埼玉県養蜂協会の青年部会長です。

ハチミツは、花の種類ごとに色・味・香りが違うとのこと。野々山さんは花ごとの味を楽しんでもらいたいと、花の時期に合わせて移動しながら蜜を採取する珍しい方法をとっています。季節の花を求めて、県外までハチを連れて行くこともあるそうです。それでもハチミツの味や採れる量は

天候などに大きく左右され、年によっては蜜がほとんど取れない花もあるとか。野々山さんが扱うハチミツは年間10種類以上ですが、それぞれが「その年だけのハチミツ」です。

「天然のハチミツをより多くの人に手軽に楽しんでもらえるよう、頑張っていきたいです」と話すのは、販売を担当する妻の恵さん。野々山さんのハチミツは、農産物販売所「あぐれっしゅ川越」などで購入できます。今年だけのハチミツを、ぜひ味わってください。



この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜

ハウレンソウ、コマツナ、サトイモ、ダイコン、カブ、ニンジン、ハクサイ、ジャガイモ、ゴボウ、長ネギ

ましよう。



今年の小江戸川越ハーフマラソンは11月27日(日)に開催されます。1万人のランナーがゴールを目指して川越のまちを駆け抜けます。交通規制等の詳細については、10月25日発行の広報川越・4ページでお知らせしています。それぞれの目標に向かって走るランナーをみんなで応援し

秋が深まり、朝晩は肌寒くなってきました。秋晴れの日に川越水上公園に出掛けると、ランニングをしている人、ベンチに座って読書をしている人がいました。みんな秋を満喫しているように見えました。ふと足もとを見ると、どんぐりを発見。子どものころ、いろいろな種類のどんぐりを夢中で集めたことを思い出しました。

編集後記

どんぐり

広報川越1378

■発行日/平成28年11月10日(毎月10日・25日発行)

■発行/川越市 〒350-8601埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>
市役所代表 ☎049-224-8811 ☎049-225-2171

■編集/広報室

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。 リサイクル適性(A)

Fontworks
UDFont